

おやつ作り教室 【中学年2・4】

- 身近な人たちの支えに気付き、考える工夫 -

- (1) 主題名 感謝の気持ちをもって [2・4]
 (2) ねらい 生活を支えている人々に対して感謝の気持ちを育てる。
 (3) 資料名 「おやつ作り教室」
 (4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 地域の人々から親切にされたことを話し合う。	<p>これまで、地域の人に親切にされた経験はありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔の遊びを調べたとき、いろいろな物を作ってもらった。 いつも、登校中に「おはよう。」と、声をかけられる。 	身近なところで、たくさんの方の親切をもらっていることを出させる。また、そのときの気持ちを話させる。
展開	2 資料を読んで話し合う。	<p>わたしは、「おやつ作り教室」が開かれるのをどう思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年楽しみにしている。 「うまい、うまい。」と、ほめられたとき、私は、どんな気持ちになったでしょうか。 うれしい。 もっと細く切るぞ。 	毎年楽しみにしている気持ちをおさえる。
開発	3 おばあさんと話をする中で、わたしが考えたことについて話し合う。	<p>「しらゆり会」の人たちが、お年寄りに弁当を作って届けたり、道路の端に花を植えたりしているのを聞いてどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが知らないところで、活動しているんだ。 いっしょに花を植えたいな。 	おばあさんの人柄にもふれさせながら、主人公がボランティアに関心をもっていく様子に共感させる。
	4 自分たちのまわりの事例について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 仕事ではなく、地域のためにがんばっている人を知っていますか。 毎日散歩しながらごみを拾っている人がいる。 交通指導をしている人がいる。 	地域でボランティア活動等をしている人たちに目を向けるようにする。
終末	5 地域を支えている人たちの活動を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 地域を暮らしやすくしている人たちがたくさんおられるのだな。 	身近な例を取り上げ、みんなのためにがんばっておられる地域の人を紹介する。

おやつ作り教室

「ミニユ二ティーセンターでおやつ作りの教室がありました。おやつ作り教室は、夏休みと冬休みに開かれます。私は、毎年この日を楽しみにしています。

おやつ作りを教えてくださるのは、地域の「しらゆり会」の人たちです。今年もたくさんの友だちが集まつてきました。わたしたちに料理を教えてくださるのは、ただしくんのおばあさんとさちこさんのお母さんです。今回のメニューは「ごまズあんかけソーメン」と「ポテトチップス」です。

みんな手をきれいにあらつてエプロンを着てじゅんびはできました。わたしたちは、ソーメンの上にかざるきゅうりとハムを千切りにします。きゅうりを切るのは、思ったよりむずかしかったです。なかなかうまく切れないのを見て、ただしくんのおばあさんが、

「ゆつくりでいいんだよ。こうやつてななめに切つてね。じゃあ、やつてみて。」

と、やさしく教えてくださいました。そして、
「うまい、うまい。そのちょうどがんばってね。」

と、ほめてくださいました。

わたし가「しようけん命」にきゅうりを切つている横で、ただし君のおばあさんは、トントンといい音をたてながらきゅうりやハムを切つておられます。わたしは、

「どうして、そんなに上手に切れるの。」

と、たずねました。

「毎日料理を作つているからね。それと一週間に一回、一人ぐらしのお年よりにお弁当を作つてとどけているんだよ。おいしく食べてもらうには、見た目もきれいにした方がいいんだよ。」

「そうかあ。きれいにかぎりつけたお弁当なら、みんな食べなくなるな。」

「そういうこと。はつはつは。」

「一人ぐらしのおとしよりつて、多いんですか。」

「多いよ。みなさん、この地域を大切にしてがんばってこられた

人ばかりだよ。わたしも、いろいろなことを教えてもらつたねえ。

だから、そのお返しつてわけ。』

（ふうん。そんなんだ。）わたしは、おばあさんの話を聞きながら、むねが熱くなりました。そして、今度は、わたしたちが何かできないか考えてみました。

わたしは、おばあさんといろいろな話をしながら料理を作りました。しらゆり会の人たちが、道路のわきにサルビアやマリーゴールドの花を植えている話も知りました。いっしょに作つた料理もおいしくできました。わたしは、また来年も料理教室に参加したいと思いました。

活用に生かすための実践報告

「おやつ作り教室」

1 主題の設定

- ・総合的な学習の時間の実施により、地域の人と交流する機会がふえてきた。交流を通して子どもたちは、感謝する対象が「日頃お世話になっている人々」から、日々自分たちの「生活を支えている人々」へと広がっていく。
- ・本資料は、主人公のわたしが「おやつ作り教室」に参加し、そこで指導していただいたおばあさんの人柄に温かさを感じる中で、自分たちの生活を陰ながら支えておられたことに気付く。そのことをとおして、自分たちの地域を住みよくしてこられた方への感謝の気持ちを養うことが中心的なねらいである。

2 指導過程の工夫

- ・「おやつ作り」は、子どもたちにとってなじみやすい経験であると思われる。そこで、簡単なおやつを準備して作り方や工夫を伝えることも効果的な導入の仕方と考える。また、これまでの総合的な学習の時間や社会科で会った人たちの写真などがあれば、提示したい。
- ・「心のノート」P46～P49を導入や終末で活用することも効果的である。

3 発問の工夫

- ・中心的な発問は、自分たちにおやつ作りを教えていただいたおばあさんたちは、地域の様々な人々のために努力されている方であったことに気がついた主人公の動きを問うものである。日

頃の生活では、感じ取ることのない「温かさ」を感じとらせたい。また、そのような方々の姿を見つけ、自分たちも何か行動を起こしたいと思えるようになった主人公の気持ちの高まりを問う補助発問を用意しておきたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

- ・人が見ていない所で、いろいろな活動をしている人たちがいることを知つてうれしくなった。
- ・自分も、大人になったら地域の人たちのためになることをしてみたい。
- ・親切にしてもらった高齢者の方に感謝し、お礼にお弁当を作つておられることはすごいな。

5 実践者からの一言

- ・子どもたちの興味を引きやすい資料であり、また、子どもたちのこれまでの経験から話に入つてきやすかった。しかし、「おやつ作り」そのものに関心が集まりやすいので、主人公がおばあさんとの交流の中で心をえていった様子をしっかりおさえることが必要である。
- ・ボランティアは、大切なことではあるが、はじめから大きなことを要求するようなことは避けたい。あくまで、子どもたちが発展的に実際の行動を起こしていきたいと考えたときには、小さなことからでもいいことを伝え、無理をさせないことが大切と考える。

（郷野小学校 柏森弘秋）